

令和元年度 第1回東郷町地域包括支援センター運営協議会会議議事録

日 時	令和元年6月28日(金) 午後2時から午後3時30分まで
場 所	役場1階 第1会議室
出席者	委員(敬称略、順不同) 石川 洋子 被保険者代表 柘植 由紀子 介護サービス利用者代表 木村 誠子 保健関係者 野々山 郁 医療関係者 小島 通範 福祉関係者 制野 司 学識経験者
欠席者	木下 雅盟 医療関係者 松山 陽二 介護サービス事業者代表
傍聴者	なし
事務局	福祉部長、高齢者支援課3名、 東郷町北部地域包括支援センター2名 東郷町南部地域包括支援センター東郷苑1名
議 題	1 あいさつ 2 報告事項 (1) 平成30年度東郷町地域包括支援センター事業実績について (2) 平成31年度東郷町北部地域包括支援センター事業について 3 議題 (1) 介護予防支援業務の公正・中立性の基準と評価について (2) 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務の委託先について (3) 平成31年度東郷町南部地域包括支援センター事業計画について (4) 市町村及び地域包括支援センター事業評価指標について
配布資料	次第 資料1 平成30年度東郷町地域包括支援センター事業報告 資料2 平成31年度東郷町北部地域包括支援センター事業について 資料3 平成30年度及び平成31年度地域包括支援センターにおける介護予防支援業務の公正・中立性の評価について 資料4 平成30年度介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務委託事業所一覧 資料5 平成31年度東郷町南部地域包括支援センター事業計画 資料6 市町村及び地域包括支援センター事業評価指標について

1 あいさつ（会長）

2 報告事項

(1) 平成30年度東郷町地域包括支援センター事業実績について

事務局	資料説明。資料1
会長	事務局から説明を頂いた。ご意見・ご質問はあるか。
委員	資料の2ページ目。総合相談事業について。かなり継続の相談件数が多くなっている。相談内容によっては増加傾向にある内容もあると思うが、この数値は面接・電話・訪問などを含めた件数なのか。
北部包括	はい。相談は電話や来所していただくことがある。電話で十分に聞き取りができない場合は、訪問する場合もある。ほとんどは電話と訪問である。
委員	例えば独居の高齢者や家族がいても支援が得られない人、親族が遠方にいても関わりたくないと言われる人など、複雑で困難な事例が増えている。保健所でも、精神障がい者の支援をしていると、親族があまり関わりたくないというケースが多くなっていて、対応方法を考えることに苦慮している。相談窓口として、ワンストップの窓口を強化したとあるが、どのように強化したのか。
北部包括	どこに相談すればよいか分からないという住民が多いので、まずは第一窓口として、包括が相談内容を聞いて、役場関係の相談内容であれば関係部署に案内している。他にも、成年後見センターや警察などにも案内することもある。
会長	資料の4ページ。認知症地域支援推進員（以下「推進員」という。）の活動について。相談件数が1.5倍に増えているが、「その他」が29年度の2件から今回86件になっている。これだけ他に項目がある中で、それに当てはまらないものが増えたことについて原因は何か。これだけ一気に増えている、上の項目に当てはまっていない。介護保険や権利擁護関係が増えるのは分かるが、詳細は分かるか。
北部包括	推進員から毎月報告は受けているが、「その他」の内容までは把握できていない。認知症の人は目的があって電話をしてくるわけではなく、ただ話しをしたいために電話があったり、役場やいこまい館に来たついでに推進員を指名して話しをするケースもある。そういうものが上の項目外の「その他」にカウントされているのではないかと思う。また分析する。

(2) 平成31年度東郷町北部地域包括支援センター事業について

事務局	資料説明。資料2
北部包括	資料説明。資料2
会長	事務局及び北部包括から説明を頂いた。 職員が1名減ったが、抜けた穴は大きいのか。大変なのか。
北部包括	昨年末から南部包括の職員と引継ぎの打ち合わせを行った。4月から6月までの3か月間で南部地域の利用者の引継ぎを行っていて、6月末に完了予定で

	ある。南部包括もそうだと思うが、今は引継ぎと新規相談の対応で大変であるが、引継ぎが終われば、今までの4割くらいが南部包括に引き継げるため、その分の余力はできると思っている。しかし、今のところは引継ぎ業務と通常業務が重なり、職員の負担はかなり大きくなっている。これから少しずつ業務が分散されていくと思う。
会長	身体に気を付けて頑張ってください。報告事項については以上とする。

3 議題

(1) 介護予防支援業務の公正・中立性の基準と評価について

事務局	資料説明。資料3
会長	事務局から説明を頂いた。ご意見・ご質問はあるか。
委員	資料3-3。基準緩和訪問型サービスAについて。シルバー人材センターともみの木のウエイトが多いが、どのような内容のサービスがウエイトを占めているのか。
事務局	家事支援が中心になっている。調理の補助や掃除、ゴミ出しなどの身体介護ではなく、家に入って生活上の困り事の支援がほとんどである。
委員	家のまわりの草刈りなども行うのか。
事務局	介護保険制度のサービスではないので行っていない。
委員	シルバー人材センターだと、草刈りが多いかと思った。
事務局	シルバー人材センターへの草木の剪定業務の委託とは別で行っているものである。こちらは介護保険サービスであり、講座を受講した生活支援サポーターが支援を行っている。
会長	占有率を気にするよりは、2事業所が廃止になり選択肢が減っているというところを見ないといけない。色々な選択肢が必要な中で、わずか4事業所の中で選択しないといけないということを考えないといけないと思う。占有率の数字はクリアしているが、基準緩和通所型サービスについては、はなのきが49.2%とギリギリの数字である。こちらでも1事業所が廃止になっている。昨年度はこの事業所が38件受けており、総数は違うが38件分ははなのきに流れているという考え方もできる。おさんぽも倍くらいになっているので、大変努力をしていると思う。一番危険なのは、そういうところであり、ここで50%を超えたら何か手を打たないといけないというよりは、その前の段階でやるべきこと、考えるべきことはあると思う。

(2) 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務の委託先について

事務局	資料説明。資料4
会長	事務局から説明を頂いた。ご意見・ご質問がないようなので、次に移る。

(3) 平成31年度東郷町南部地域包括支援センター事業計画について

南部包括	資料説明。資料5
会長	南部包括から説明を頂いた。ご意見・ご質問はあるか。
委員	食の自立支援事業について。一人暮らし高齢者に対してとあるが、これは民生委員が対応している一人暮らし高齢者との関係はあるのか。
南部包括	一人暮らし高齢者の登録をしている人のうち、配食サービスを並行して使っている人はもちろんいるし、民生委員と連携を取りながら利用している人もいる。一人暮らし高齢者の全てが対象というわけではない。一人暮らし高齢者という表現はしているが、高齢者のみの世帯の人なども対象になるので、その都度民生委員と話をしながら、必要な人には案内をする。
委員	もし要望があれば対応してもらえということか。
南部包括	はい。例えば町のサービスだと昼間は配達されないなどの制約がある事業所もある。そういう事情により、中には、一人暮らしをしているが町の制度を使わず実費で注文している人もいる。そのあたりは個々の状況によると思う。
委員	認知症初期集中支援チームについて。今年の4月から実施されているのか。
事務局	平成30年4月からチームの設置をしている。設置当初の事務局は町であったが、今年度の4月から南部包括に事務局を委託している。
委員	平成30年度の実績はどこかで報告があったということか。
事務局	運営協議会の場では報告していないが、東郷町地域ケア推進会議在宅医療・介護連携推進部会で報告を行っている。
委員	豊明市で課題になっていることは、相談があった事例に多職種で関わる時に、所属が違う人たちと調整をするのにとっても時間がかかり、対応するために3週間から1か月かかることだと聞いた。調整が困難であることが課題にあると思う。東郷町は、職種間の調整はどうか。
事務局	現在のチーム員は、町内のチーム医1名、北部包括・南部包括各1名であり、昨年度は事務局として町の職員も参加していた。電子@連絡帳を利用して、訪問記録を共有したり、日程調整も行っている。支援入るに当たるための調整も、比較的チームとしての動きとしても、開始が早かった豊明市のような相談件数が多いわけではなく、昨年度は3件だったので、そこから今年度以降も相談件数が増えてれば、訪問するまでの調整に時間がかかることもあると思う。
委員	今後、実績を経年変化で見ながら、課題の評価をしてください。
事務局	在宅医療・介護連携推進部会で、どのようにチームの活動を評価するかについて、今年度議題にあげていく予定のため、機会があれば報告する。
委員	とても効果的な支援方法なので、充実されていくと良いと思った。豊明市もそこまで件数は多くないが、このような課題があがっていたので、東郷町はいかがかなと思った。
委員	食の自立支援事業について。この事業は、非常に重要だと思う。希望者の実態が知りたい。また、希望する人ではないところに課題がある気がする。民生委員と一緒にいけば良いと思うが、実態がどうなっているのか情報が欲しい。

	<p>食の自立支援事業が必要な人が、隠れている場合もある。低栄養などは命に関わることだと思う。上手に実態を調べて、隠れている人を把握したらどうかという提案である。</p>
委員	<p>民生委員は毎月訪問しており、そのあたりの情報は掴めると思うので、民生委員に聞いてもらうのも良い。</p>
委員	<p>アセスメントだと細かいので、アセスメントの前に、必要かどうかを判断する程度のアンケートを4、5項目行ったらどうか。必要だと判断したら積極的に関わり、アセスメントを行う。希望者を作る仕掛けが必要だと思う。男性はインスタント麺だけ食べているという人もいる。</p>
委員	<p>食の自立支援事業について。新規と継続の数字があるが、民生委員が訪問している数字か。</p>
事務局	<p>食のアセスメントは、包括のランチが対象者の訪問をしていた。訪問前の情報として、民生委員が食の自立支援事業について伝えて、希望すれば本人から町に申請を行い、申請が出た時点で訪問してどのような食生活を送っているかなど、配食が必要な事情を把握している。</p>
委員	<p>新規も継続も件数が多い。継続して配食サービスを続けていくとなると、すごい件数になると思う。東郷町は配食サービスに係る補助金はどれくらいなのか。また、各市町村で配達する曜日などが異なると思うが、東郷町はどのようになっているのか。この件数はすごい大変な数だが、配食サービスの事業者はどれくらいあるのか。</p>
事務局	<p>町では1日1食、主に夕食を最高で週7回注文することが可能である。ただし、中には週3日のみ希望する人などもある。本人負担は1食300円であり、町はそれ以上の額を負担している。人数だけではなく、配食サービスに係る費用も非常に膨らんでいる。委員も言っていたが、ある男性について、妻が亡くなるなどの理由により調理が出来なくなり、買い物はできるが配食を頼んでいた。今の要綱ではこういう人を却下できないので、認めざるを得ないのが現状である。ただし、要綱の見直しは行っていきたいと考えており、本当に必要な人で、やはりこういうサービスも、配食事業者が少なかった時代は、町も積極的に関与していかないといけないということがあった。しかし、今は冷凍したものを配食してくれる事業者など様々な事業者が出てきており、町が委託している事業者は4件しかなく、なおかつ、日曜日は配達していない事業者もあるなどの諸事情がある。そのため、民間の事業者を案内しながら町の事業を行うということを考えないといけないと思っている。</p>
委員	<p>町と契約した事業者ではないと、補助がでないのか。</p>
事務局	<p>はい。その事業者と合わない人は、実費で他の事業者に依頼している現状は多々あると思う。</p>
会長	<p>事業計画の形は北部包括と同じであり、上手く作られていると思う。在宅医療介護連携推進事業について。北部包括の計画にも項目としてあり、豊明東郷</p>

	医療介護サポートセンターかけはし（以下「かけはし」という。）の開催するものに出席するとなっているが、あえて南部包括はレガッタネットとうごうの活用を膨らませていくという強い思いがあるような話であった。ICTが大事なことは十分に理解できるし、別の会議でもどうやって利用者を増やしていくのかということが大きな問題になっていた。あえてこの内容を事業計画の中に包括として入れたことに、何か思いがあるのか。
南部包括	医療と介護の連携をどのように進めていくかについて話し合いを行ったところ、今既にあるかけはしや東名古屋医師会医療介護総合研究センターやまびこ、電子@連絡帳の活用から始めていくことが基本だと思い記載した。医療と介護の連携は非常に重要である。東郷町は有床病棟がないため、特に藤田医科大学病院や愛知医科大学病院、名古屋記念病院などの町外の病院と、町内のかかりつけ医をいかに繋いでいくか。こういうところを、包括として支援する必要があると思っている。多職種連携については、日本はFAX社会であるが密な連携がとりにくい。ICTはこういう連携で生きてくると考えている。ただ、登録者が伸びないという課題はある。
会長	大事な課題だと思う。色々な側面から支援してください。

(4) 市町村及び地域包括支援センター事業評価指標について

事務局	資料説明。資料6
会長	事務局から説明を頂いた。ご意見・ご質問はあるか。
委員	30年度の評価はどこかのタイミングで行うのか。
事務局	30年度の評価を行うために、町と各包括の評価結果を既に国に提出している。国が分析し、秋ごろには結果が返ってくるため、次回の運営協議会で市町村間の比較やセンター同士の比較なども示すことができると思う。

4 その他

会長	南部包括は、生まれたての包括ということで優しく暖かい目でと言いたところではあるが、なかなか地域の相談者は手厳しい相談などもあり、待つてもらえるものではないと思う。恐らく職員も苦勞していると思う。北部包括には素晴らしい職員がたくさん揃っているので、ぜひノウハウを北部包括から学んでもらいたい。北部包括はしっかりと情報共有をして南部包括を支えてほしい。中間に行政がいるので、出てきた課題をしっかりと支えていけるような環境を早く作って、この1年で安定した体制をまずは作っていければと思う。この運営協議会では、それをしっかりと見守っていきたいと思う。最初の挨拶ではないが、ごたごたしている包括で働いている私の友人から、辛辣な言葉をたくさん聞く。関係性が悪くなると、相談者にも迷惑がかかり、相談者に対してもきっとそのような態度になってくると思う。お互い牽制することなく、しっかりと承認しあうことで次に繋がっていけるような考え方が、東郷町では浸透して
----	---

	<p>いくことを期待したいと思う。</p> <p>その他ご意見がないようであれば、議題は以上とする。進行を事務局へ戻す。</p>
事務局	<p>令和元年度第2回の運営協議会は令和2年2月頃を予定しているので、出席をお願いします。次回は東郷町及び包括の事業評価の結果報告及び令和2年度の東郷町の包括運営方針案や各包括の事業計画案を示す予定。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>

以上